

7. 都市防災

1) 地震

(1) 過去の地震災害事例

■過去の地震災害事例

1729年3月8日(享保14年2月9日)		
下田で家宅・土蔵など多く傾き、あるいは覆る。また吉佐美で“大地破れ、川筋に水涌く”といわれている。		
1854年12月23日(安政元年11月4日)	安政東海地震	M=8.4
下田では小家の瓦少々落ち、石塔・石燈籠全倒、蔵の鉢巻・土塀崩れる。また柿崎では玉泉寺の石塔倒れ、石燈籠・竿石折れるなどの被害があり、震度は6に達した。		
1891年10月28日(明治24年)	濃尾地震	M=8.0
蓮台寺の温泉は地震後温度が下がり入浴不適となったが3・4日で旧に復した。		
1923年9月1日(大正12年)	関東地震	M=7.9
東京・横浜を潰滅させた大地震であるが、この地域では浜崎村で2人の死者が出たほか、全壊23戸(4.4%)、また下田では全壊2戸(0.2%)の被害が出た程度であった。		
1944年12月7日(昭和19年)	東南海地震	M=7.9
下田では震度4であったが、県中・西部では大きな被害を生じた。		
1974年5月9日(昭和49年)	伊豆半島沖地震	M=6.9
負傷者34人、住家全壊23戸、半壊42戸、一部損壊1,118戸、道路破壊9箇所、山(崖)崩れ25箇所などの被害があった。		
1978年1月14日(昭和53年)	伊豆大島近海地震	M=7.0
被害は負傷者51人、住家全壊12戸、半壊24戸、公共建物12箇所、文教施設33箇所、道路30箇所、橋梁1箇所、河川2箇所、水道31箇所、崖崩れ12箇所などに及んだ。		

(資料:静岡県地震防災センターHP)

(2) 過去の津波災害事例

■過去の地震津波災害事例

1605年2月3日(慶長9年12月16日)	慶長地震津波
“田牛で寺堂ならびに尊像共に山奥に打入る”という史料があるので、津波の高さは3~4mであろう。	
1703年12月31日(元禄16年11月23日)	元禄地震津波
津波の高さは3~4mで、宝福寺の大門に達した。家数492戸のところ332戸が流失皆潰、160戸が半潰、男女27人流死(37人または20人との記事もある)、船大小81隻破船、痛みなどの被害があった。下田武ヶ浜川除浪除(長200間、平均高7尺、馬踏5尺、敷2間)も津波で崩れた。	
1707年10月28日(宝永4年10月4日)	宝永地震津波
津波の高さは5~6mで、宝福寺裏竹林まで達した。全壊857戸、半壊55戸、溺死11人、船破損93隻。	
1854年12月23日(嘉永7年11月4日)	安政東海地震津波

津波の高さは、外浦 3.5～4.5m、柿崎 6.5m、下田 3.5～6.8m、吉佐美 2.4m に達した。柿崎では全壊・流失 75 戸、死傷なし。また、下田(本郷・岡方を含む)984 戸のうち 937 戸が流失した。水死 122 人であった。古記録によると、津波は地震後約 15 分で襲来している。	
1923 年 9 月 1 日 (大正 12 年)	関東地震津波
下田・柿崎で 2.5～4.5m の高さの津波があった。また湾外の須崎・外浦などでやや高く、4～6m に達した所もある。被害は全壊 2 戸、半壊 50 戸、床上浸水 190 戸。	
1944 年 12 月 7 日 (昭和 19 年)	東南海地震津波
津波の高さ、下田市街で 1.5～2.5m、稲生沢川沿いに浸水した。	
1946 年 12 月 21 日 (昭和 21 年)	南海地震津波
津波の高さ 2m 程度、殆ど被害はなかった。	
1960 年 5 月 24 日 (昭和 35 年)	チリ地震津波
南米チリで起こった地震による津波。津波の高さ 1.3～1.8m、地上 50cm 程度の浸水。稲生沢川が引き潮で干上がり、歩いて渡れた。鍋田の砂浜で津波の高さ 1m 程度。	

(資料:静岡県地震防災センターHP)

(3)地震・津波予測

- 最大の被害をもたらす「レベル2の地震・津波（南海トラフ巨大地震）」の被害想定について、静岡県第4次地震被害想定（第一次報告）では、沿岸部の低地一帯が浸水域となる。
- 地域において検討されている、地震における高台などの津波一時避難場所は、108箇所（平成24年時点）に及ぶ。

■全壊・焼失棟数

区分	揺れ	液状化	人口造成地	津波	山崖崩れ	火災
棟数	約 90	約 40	—	約 3400	約 90	—

■半壊棟数

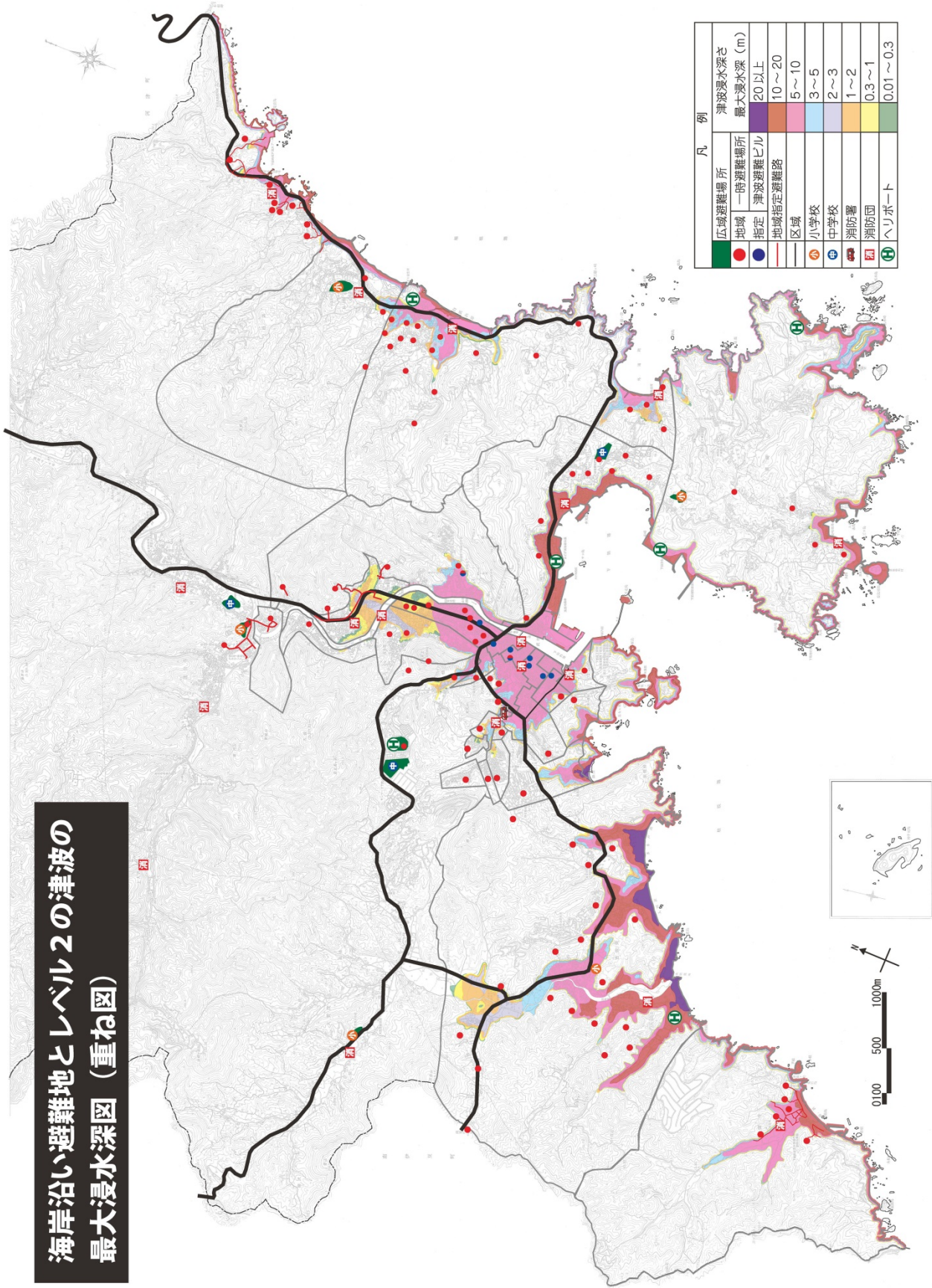
区分	揺れ	液状化	人口造成地	津波	山崖崩れ	火災
棟数	約 600	約 90	—	約 600	約 200	—

■死者数

区分	建物崩壊	津波	山崖崩れ	火災	ブロック塀転倒・ 屋外落下物
人数 (早期避難率低)	約 10	約 5100	約 10	—	—
人数 (早期避難率高)	約 10	約 2000	約 10	—	—

(資料:静岡県第4次地震被害想定調査)

海岸沿い避難地とレベル2の津波の
最大浸水深図（重ね図）



2) 土砂災害等

(1) 過去の土砂災害等の災害事例

■過去の高潮による災害事例

1961年9月16日(昭和36年)	第2室戸(18号)台風
吉佐美の大賀茂川が逆流、床下浸水21戸、田畑冠水30haの被害を生じた。	
1979年10月19日(昭和54年)	台風20号
床上浸水9戸、床下浸水99戸の被害があった。	

(資料:静岡県地震防災センターHP)

■過去の台風による災害事例

1940年7月13日(昭和15年)	
被害は伊豆半島南部で大きく、下田町では床上浸水1,500戸、床下浸水1,500戸に達した。	
1952年6月23日(昭和27年)	ダイナ台風
御前崎から駿河湾北部を通過し、石廊崎で南西の風36.8m/sを観測した。下田地方では、漁船3隻が沈没、多数が大破して行方不明2人。稲梓村で多数の家屋が破損、竹麻村全壊2戸、稲生沢村全壊1戸、半壊2戸、上河津村全壊、住家損壊多数、浜崎村家屋破損60戸、白浜村全壊1戸のほか田畑冠水、道路の決壊など被害甚大であった。	
1958年9月26日(昭和33年)	狩野川(22号)台風
伊豆半島一帯で被害甚大で、死者行方不明1,000人以上にのぼったが、そのうち下田では、死者3人、負傷者2人、全壊3戸、半壊8戸、流失2戸、床上浸水322戸、床下浸水568戸、田畑流埋2haである。	

(資料:静岡県地震防災センターHP)

■過去の豪雨による災害事例

1975年10月8日(昭和50年)	
伊豆半島中部で200~300mmの雨量があった。家屋の被害は全壊1戸、半壊6戸:計7戸、床上浸水767戸、床下浸水1,009戸などである。	
1976年7月10日(昭和51年)	
伊豆地方中・南部で大雨。10日9時~12日9時の雨量は400~500mm(平地・海岸地方で多く、山間部が少なかった)。被害は、死者10人、行方不明3人、負傷者22人、家屋の全壊21戸、半壊19戸、流失1戸:計41戸、床上浸水2,692戸、床下浸水3,212戸、道路損壊176箇所、橋梁流失24箇所、堤防決壊207箇所、山(崖)崩れ327箇所に及んだ。	
1991年9月10日(平成3年)	
低気圧による雨雲が発達、下田市街地では大した降雨はなかったが、数Km離れた山間部では数時間大雨が続くというきわめて局地的な豪雨となった。下田市落合地区で土砂崩れにより、家屋が崩壊するなどした。下市内では死者4人、全壊18戸、半壊9戸、床上浸水44戸、床下浸水123戸の被害となった。	

(資料:静岡県地震防災センターHP)

(2) 土砂災害(特別)警戒区域

- 土砂災害(特別)警戒区域は、土砂災害特別警戒区域が462か所、土砂災害警戒区域550か所指定されている。
- 地球温暖化に伴い、全国的にゲリラ豪雨や大型台風並びに突風(竜巻)などが発生しやすい時代となっていることから、定期的な巡回による被害の未然防止並びに、早期の避難連絡体制による、市民の生命・財産等の安全を守ることが重要である。

■土砂災害(特別)警戒区域

(資料:静岡県統合基盤地理情報システム)

